

※製品到着後、直ちに圃場に放飼してください。放飼できない場合は10～20℃の冷暗所で一時的に保管してください。

規格：ヤマウチアシボソトゲダニ 100000頭入／1箱（50000頭／5L x 2袋）

外装：ダンボール箱

内装：不織布袋（30x40cm x2袋） ※放飼用10mlスプーン同梱



放飼用スプーン
期間限定 3本添付
在庫なくなり次第 1本添付になります



<適用表>

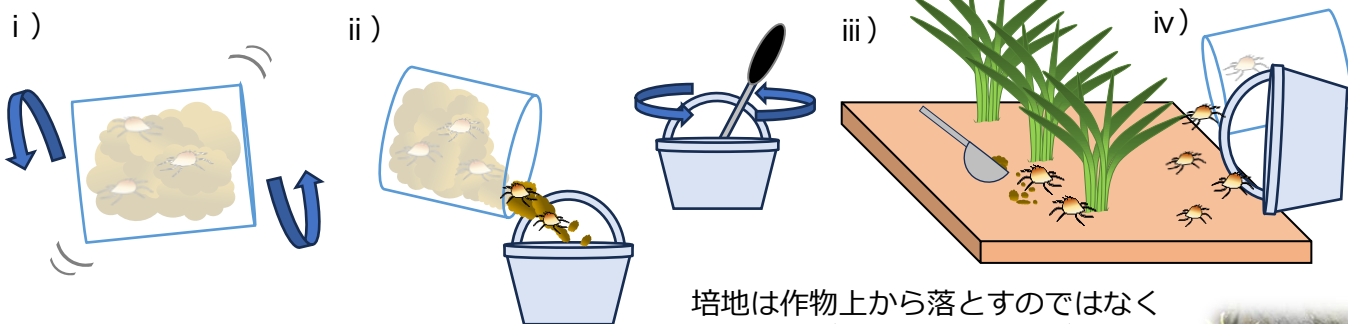
2026年4月現在

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ヤマウチアシボソトゲダニを含む農薬の使用回数
にら (施設栽培)	ネダニ類	100頭/m ²	発生前～ 発生初期	—	株元 放飼	—
いちご (施設栽培)	クロバネ キノコバエ類					

使用期限：5日（10～20℃で保存した場合）

放飼方法

- i) 不織布袋を開封する前に、ゆっくり20回以上回転させて攪拌してください。
- ii) 放飼しやすいようにバケツ等の容器に移し、再度ひしゃく等で攪拌してください。培土中にトゲダニ（以下、天敵）が偏在しており、土の中に隠れやすいため、下からすくいあげるように混ぜると均一になります。袋には天敵が残っているので、開いた状態で ほ場に静置してください。
- iii) 1m²あたり放飼用スプーン1杯（約10ml）を作物の陰になる株元に落とします。天敵の偏在を防ぐために、適度に容器内を混ぜながら放飼作業をおこなってください。ほ場全体に均一になるようになるべく多くの株に放飼してください。
※放飼直後に水が多量にかかると天敵に影響があるので灌水チューブの位置に注意。
- iv) 放飼後、使用したバケツ等の容器には天敵が残っているので作物の陰に静置してください。



移し終えた不織布袋、放飼に使用した容器には天敵が残っているので作物の陰に静置してください

培地は作物上から落とすのではなく株元に近づけて落としてください。天敵が根際に速やかに移動できます。



トゲダニキング® を利用したニラでの防除体系案 <1年株作型の例*>

6月	7~8月	9月	10月	11~4月	5月
定植		収穫開始	天井被覆展張		栽培終了
※天敵に長期間影響がある剤 ・グレーシア ・トクチオン ・フォース 放飼前に使用しない	天敵放飼前に アプロード** フロアブル 500~1000倍 1~3L/m ²	放飼前に左記薬剤でネダニ密度を十分に下げしてから 天井被覆展張後に放飼 トゲダニキング®	天敵活躍期間 天敵に影響の少ない薬剤を併用しながら病害虫防除		

*2年株作型の場合、高温下での効果は著しく下がるので夏季には化学農薬防除への切り替えを推奨します。

**アプロードフロアブルの使用時期は、収穫14日前までです。

トゲダニキング® を利用したイチゴでの防除体系案 <本ぽ定植後放飼†>

6月	7月	8月	9月	10~4月	5月
育苗期からキノコバエ類の防除を徹底する	ランナー切り離し~育苗	定植	定植	開花・収穫 開花期以降はハダニ天敵放飼	栽培終了
	天敵放飼前に ・ベストガード ・ベリマーク ・モベント ※モベントは天敵カブリダニ影響35日	放飼前に左記薬剤でキノコバエ類の密度を十分に下げってから 天井被覆展張後に放飼 トゲダニキング® 定植後~マルチ前の放飼がおすすめ ※農薬の影響に注意	天敵活躍期間 天敵に影響の少ない薬剤を併用しながら病害虫防除 カスケード、ベネビア		

†育苗期放飼は農薬の他、灌水の影響も大きいため注意が必要です。育苗期に導入していた場合、他の病害虫防除の観点からも化学農薬による防除でリセットし、本ぽで再放飼してください。

トゲダニキング® 放飼における注意点

2026年4月作成

<トゲダニキング放飼後の殺虫剤について>

農薬を使用する際には必ずラベルを確認し、正しくご使用ください。

影響の少ない殺虫剤 ※下線はハダニ天敵に影響ある	若干影響ある殺虫剤 ※下線はハダニ天敵に影響ある	影響のある殺虫剤
アドマイヤー1粒剤、アファーム乳剤、カスケード乳剤、コテツフロアブル、コルト顆粒水和剤、コロマイト水和剤、サンクリスタル乳剤、ダントツ水溶剤、ネマキック粒剤、ファインセーブフロアブル、プレオフロアブル、ベリマークSC、ポタニガードES、モスピラン顆粒水溶剤	アプロードフロアブル、 <u>ディアナSC</u> 、 <u>アグロスリン乳剤</u>	グレーシア乳剤、トクチオン細粒剤/乳剤、ネコナカットフロアブル、ハチハチ乳剤/フロアブル、フォース粒剤、リーフガード顆粒水和剤

※天敵は予防剤であり、効果的に使用するには、放飼前に害虫を徹底防除しておく必要があります。商品到着時に害虫が散見される場合は上記の薬剤で防除を行ってください。

※上記薬剤以外で、特に合成ピレスロイド剤や有機リン剤、カーバメート剤、ネライストキシン系薬剤、ピラゾール系薬剤などは影響が大きく長期間影響が残るので、天敵の放飼前にこれらの薬剤を散布していた場合は天敵がうまく定着しないことがあります。



有用微生物を灌注施用！健全な根圏環境づくりに

主成分：トリコテソイル・ハダニガード T-22株 1.0×10⁹ (孢子/製品g)

規格：250g/袋 保管：冷蔵 (2~10℃)

使用方法：250g/10aを土壌灌注にて施用 (希釈目安500-4000倍)